

(牧師室より)

[中村哲氏のこと]

中村哲氏は1946年福岡県生まれの医師ですが日本国内の医療活動の後にパキスタン、更にアフガニスタンに渡り医療に取組みます。アフガンでは難民や山岳無医地区の診療に。そして驚くべきことに大旱魃が起ったアフガンで水の確保のために1千を超える井戸の掘削を行います。そして極め付きは25kに及ぶ灌漑用水路の建設でしょう。自ら掘削機を操縦しながら砂漠に水を通すこととなります。これにより1日40万トンが送水され1万6千ヘクタールがうるおい、65万人が自給自足可能になります。緑化の様子はテレビでも放映されました。工事中に欧米軍の空爆があり命がけの作業でしたが氏は先頭に立って指導に当たります。そこには日本民間の資金、現地人の協力がありました。この氏のエネルギーの源はどこにあったのか。氏は著書『天、共にあり』に記しています。「ミッションスクールの西南学院中学部に通っていた私は、いきおいキリスト教と向き合わされた」「マタイ伝の『山上の垂訓』のくだりを暗記するほど読んだ……汝らの恵みは備えられて在り。暖衣飽食を求めず、ただ道を求めよ。天は汝らと共におわします」。天(神)共にありの確信の内にこの大事業をなしたことを思います。昨年12月に銃撃され死に至ったことは大変残念なことでしたが今氏は天国にあってアフガン、日本、世界を見守っていることでしょう。